

地域運営組織形成のための手順書

—活力ある地域づくりのために—

山形県企画振興部

はじめに

少子高齢化を伴う人口減少が加速する中、地域における移動手段や買い物支援などの生活支援機能が手薄になってきており、今後、更に人口減少が進めば、日常生活に必要なサービスを受けることが難しくなるなど、住みなれた地域で暮らしを維持していくことが困難となることが懸念されております。

こうした中でも、県内においては、住民同士が地域の将来のことを話し合い、地域住民が主体となって組織を形成し、自治体との連携のもとで住民が必要とする様々なサービスを展開するなど、地域の特性や実情を踏まえた、住民主体による地域づくりについて大きな成果をあげている地域も現れてきております。

県としても、自らの地域を守り維持していく主体は、そこに住んでおられる住民の皆様であり、先の事例のように、地域で暮らし続けるために何が必要なのかを話し合い、将来ビジョンを共有し、住民が主体的に地域づくりに取り組んでいくことが重要であると考えております。

また、政府においても、地域住民自らが主体となって様々な生活サービスの提供や域外からの収入確保などの地域課題の解決に向けた事業等について多機能型の取組みを持続的に行うための組織(地域運営組織)の形成を推進しており、平成27年度時点で地域運営組織は全国で1680組織が形成されていますが、本県では15組織に留まっている状況にあります。

こうした状況を踏まえ、県では、住民自らが暮らしを支える様々な活動を行う地域運営組織の形成促進に向け、県内4ブロックにおいて選定するモデル地区に対し、市町村と連携し重点的に支援を行うとともに、県内4地域に県・市町村・地域づくり支援団体からなる「地域づくり支援プラットフォーム」を新たに組織し、地域や市町村の取組みを総合的に支援していくこととしております。

本手順書は、こうした取組みを効果的に推進するため、全国的にも地域運営組織の先駆的な取組みとして知られる川西町の「きらりよしじまネットワーク」の事例を参考に、活動の初期段階から現在までを詳細に分析し、具体的なプロセスやノウハウが見える化したものです。

是非とも、地域の皆様をはじめ、地域づくり活動を支える市町村職員の皆様に本手順書を御活用いただき、多くの地域で地域運営組織形成に向けた取組みが推進され、地域の人々が将来にわたり、安心して暮らし続けることができる地域が実現されることを期待しております。

平成29年3月

山形県企画振興部長 高橋 広樹

地域運営組織形成のチェックシート

本書は、山形県川西町にある地域運営組織「NPO法人きらりよしじまネットワーク(以下「きらり」)」が、どういった過程を経て組織を立ち上げたのかを、その手順や手法とともに説明します。

地域運営組織の立ち上げを想定していますが、既に組織があり計画が動き始めている地域も少なくないでしょう。もし「あまり上手くいっていない」「ここでつまづいている」ということがあれば、見直しや軌道修正のために活用いただきたいと思います。

まずは、地域運営組織の形成に向けて、今、地域では何ができていて何ができていないかを確認してみましょう。そして、これから何に取り組まなければならないかを整理しましょう。

STEP 1

構想段階
危機感や夢の共有

- 地域がこのままの状態ではいけないという危機を感じている
- 新しい地域運営の必要性を感じている
- 地域づくりを何とかしたいという住民(有志)がいる
- 仲間や住民同士で将来の地域づくりについて勉強会をしている
- 理想の地域づくりのイメージがある
- 地域の誰にアプローチするとアクションが生まれるか知っている

STEP 2

スタートアップ期 I
地域の現状把握と
組織づくりの準備

- 地域の診断、住民アンケート、ワークショップ等で地域の課題や魅力、資源を把握し住民同士が共有する場をつくっている
- ワークショップやフィールドワーク等をコーディネートするために学んでいる
- ワークショップ等で得た情報を整理することができる
- 行政と情報共有や方針共有がされている

STEP 3・4

スタートアップ期 II
地域課題を解決する
組織づくり・計画づくり

- 組織の構成と役割が明確化されている
- 出てきた課題について、誰が、何を、どのように、いつまでやるか整理している
- 整理した課題をプラン(計画)として見える化している
- プランに対し行政からの何らかの支援がある
(ヒト・モノ・カネ・情報・手法)
- プランづくりのプロセスと内容が住民に周知できている
- どのような形態(組織)がプランを実行するか決めている
- 住民や主要団体、行政の間でプラン実行の合意形成がある

目次

はじめに

地域運営組織のチェックシート

きらりよしまネットワークのプロフィール

第1部 きらりよしまネットワークができるまで

STEP 1 構想段階—危機感や夢の共有

- 1-1 きっかけは川西町の行財政改革
- 1-2 有志による勉強会

STEP 2 スタートアップ期Ⅰ—地域の現状把握と組織づくりの準備

- 2-1 現状把握—地域団体の形骸化
- 2-2 素案作成—地域再生に向けた提案
- 2-3 改革実現のためのアプローチ—理事会
- 2-4 改革実現のためのアプローチ—総会

資料 地域運営組織の組織形態について

コラム なぜNPO法人なの？—きらりの選択

STEP 3 スタートアップ期Ⅱ—地域課題を解決する組織づくり

- 3-1 地域組織の再編—分離型組織から一体型組織へ
- 3-2 きらりの組織図

STEP 4 スタートアップ期Ⅱ—地域課題を解決する計画づくり

- 4-1 地区計画策定に向けた委員会発足
- 4-2 地区計画の考え方
- 4-3 地区計画策定のワークフロー
- 4-4 地区計画の組み立て方
- 4-5 全住民に周知する

参考資料

第2部 地域を運営するために必要な4つの柱

CHAPTER 1 合意形成

- 1-1 民主的な合意形成の流れ
- 1-2 決めない会議—合意形成のはじめの一步
- 1-3 決める会議—企画から事業化まで(事務局会・理事会)
- 1-4 決める会議—地域づくりの最高決議機関(総会)

CHAPTER 2 ひとづくり

- 2-1 地域づくりに求められる人材
 - 2-2 人材確保・育成の仕組み マネージャー編
 - 2-3 人材確保・育成の仕組み プレイヤー編
 - 2-4 チームビルディングを促すコーディネーターとは
 - 2-5 住民の自己実現のための学びをつくる
- 参考資料 リーダーのもつべきスキル

CHAPTER 3 資金づくり

- 3-1 活動資金と財源
- 3-2 多様な財源確保と活用
- 3-3 事業から生まれる財源(コミュニティビジネス)
- 3-4 生きがいや所得をつくりだすコミュニティビジネス

CHAPTER 4 つながる

- 4-1 内と内をつなげるコアリーダー
- 4-2 内と内のつながりから内と外につながりへ
- 4-3 企業とつながり、課題解決の場を拡充
- 4-4 交流から活動人口の拡充へ

コラム 地域運営リーダーのための8箇条

コラム 社会教育からみた「きらりよしじまネットワーク」の意味